

◆自己点検評価報告書(2025年度活動評価)

日産京都自動車大学校

※評価凡例：4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 Na. 当てはまらない

車体教育項目

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

↓				
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	・理念・目的・育成人材像は、当大学校の「教育理念」及び「教育方針」の形で、明確に定められている ・この教育理念・教育方針に則り、中期・年度の活動方針を展開、教育活動に反映している。 ・不定期ではあるが、環境をみつつ見直しを実施している。(2013年に見直し実施) ・育成すべき人材像の検討を2017年に京都校内で再確認し、年度計画に育成方策として入れている。	特になし。	a.ホームページ(教育理念)
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	4	・業界のニーズは、先端の整備技術・ノウハウ、また、お客さまへの対応技術・ノウハウを強く求めている。 ・当大学校の理念も「時代をリードする技術力、人間力を兼ね備えた自動車エンジニアの育成」であり、描く人材像としては重なる。 ・特に一級自動車工学科では、業界の変化はとらえて、エーミング調整等特定整備(先進運転支援システム)にかかわる授業の導入を進めている。 ・一級自動車工学科の育成について以下の方向で検討をしてきた。 1) 国家一級資格の取得。 2) 自動車の先進運転支援システムや電子制御システムの基礎を論理的に理解し、応用・発展させ自己成長する能力の育成を図る。 1) 2026年3月の登録試験(学科・口述)は、受験者36名全員が合格(合格率100%)となった。 2) 学生フォーミュラ大会は、第24回 学生フォーミュラ日本大会に参加し、EV部門13位(25チーム中)の結果となった。 参加チームの内訳(国公立大学:10チーム、私立大学:5チーム、海外大学:7チーム、高等専門学校:1チーム、専門学校:2チーム)となり、私立大学・専門学校の中ではトップクラスの成績である。 また、卒業研究では近隣中学校3校に「技術・家庭」の一環として、ギヤやリンク機構による動力伝達や電気自動車の内容を2年生を中心に約600人に教えた。 学生が主体的に考え、行動できる学生の育成に成果が出た。	・業界のニーズを広く求め、当大学校の理念に沿った人材育成を継続する。 ・新しい整備士制度(総合)の取得にむけ、二級課程から全校挙げて準備を進めていく。 今後の車体、一級についても、早期から情報収集、カリキュラム検討を進める。 ・学生フォーミュラ大会への出場を通じて、学生育成を継続する。	a.ホームページ (学長メッセージ、教育理念) b.販売会社アンケート c.学生フォーミュラ参戦資料
車体	3	・自動車整備・ボディリペア科においても自動運転等の先進運転支援技術に対応したセンサー類の取り扱い、調整等の修得の必要性を認識しており、授業ではバンパー脱着、ドアミラー交換等での注意点等、新たに機器を導入することなく、授業に取り入れていく。	・教員は塗装、板金等専門知識は十分であるため、今後は先進運転支援技術の知識技術の習得を図っていく。 ・昨年度は「電子制御装置整備の整備主任者講習」を受講・諮問を受けた。受験者23名、合格者23名、合格率100%であった。 この講習の受講を開始して以来、初めて全員が一発合格となった。	d.車体教育課程編成委員会議事録(2025/2開催)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか。	4	・中期・年度の計画を策定する中で社会のニーズにあわせた、以下の将来構想を展開しているが、募集は苦戦。 1)整備技術の高度化対応⇒「一級課程へのシフト」 ⇒定員を80人に拡大したが、応募者は減少傾向にあるため、2019年度より75人に変更。 2)整備技術の多様化⇒自動車整備・カスタマイズ科の創設 ⇒自動車整備・カスタマイズ科4年生が製作したカスタムカーが展示会で優秀な成果をあげて卒業。 入学生も増加傾向 3)海外労働力の活用⇒「留学生の増員」 ⇒2021年度より国際オートメカニク科(留学生3年制)を開講し、34人が入学した。 以降、入学生は拡大傾向にあり、2025年度は105名の学生が入学。今後も応募者の増加が見込まれる。 4)在校生、卒業生から入学生紹介制度を行い、また、日本語学校との提携を結び安定した人員を確保している。	・予定の募集員数に至っていない【既存の策・レベルでは、整備士志望の低迷に追いつかない】 1)一級課程の付加価値として、日産インテリジェントモビリティをはじめとする先進運転支援技術を学ぶ授業を2018年度より順次導入している。また、卒業研究の充実のために、研究の一つとして2018年度より学生フォーミュラへの参戦準備、2019年は本戦に進んだ。2020年、2021年は新型コロナの影響で大会は中止となった。2022年から大会が復活し、2024年は2023年に引き続き「新車両」にて参戦した。総合順位42位(75チーム中)EV部門9位(21チーム中)の結果となった。今大会ではEV参加の21チーム中、12チームのみが電気・機械車検に合格⇒動的審査に進んだ(京都校もこの内の1チーム)。今年度は製作車両の旋回時の走行安定性を向上させる取り組みを行う。 2)自動車整備・カスタマイズ科4年生が作成したカスタムカーを「東京オートサロン」「大阪オートメッセ」「Nostalgic 2days」に出展し、高評価・好成績を取っている。 学校をPRできる広告塔になってきた。 3)国際オートメカニク科が3年目となり、10月の登録試験を控えている。全員合格に向けて、昨年度後半から学習をスタートしている。登録試験の合格状況が日本語学校からの評価にもつながることから、学年を問わず、国際オートメカニク科の全教員で一丸となって取り組む。 4)日本語学校へのPR強化と留学生向けの奨学金を設定。在校留学生からの口コミも効果的と認識している。日本語学校の連携や学生の口コミを通じて、優秀な留学生確保を図る。 5)在校生、卒業生から入学生紹介制度、また、日本語学校との提携により、引き続き安定した人員確保を図る。 6)日本人学生の減少、留学生整備士のニーズに合わせ、2027年度より、国際オートメカニク科を3クラスに増員。2026年から募集を行う。 約5割の整備事業場で整備士が不足しており、約1割の事業場が既に運営に支障。留学生の整備士のニーズは上がり、国際オートメカニク科の増員により整備士不足を補いたい。 7)学費面等にハードルがあるが、学内アンケート結果よりポディリペア希望者が若干名いる。このニーズに応えるため、留学生を対象にしたポディリペアコースを2028年度に立ち上げる。	a.中期計画(2024～2026年) b.2025年度活動実績

基準2 学校運営

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-1 理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	4	・理念、教育方針のもとに、中期、年度の計画・方針を明確に定め、展開している。	特になし	※以下は、1-3の資料と同じ a.中期計画(2021～2023年) b.2021年度活動実績
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか。	4	・学校法人及び日産・自動車大学校(※1)としては、【決定基準】がその意思決定の権限基準を決めており、学校としては、組織図が各権限基準を示している。 ・各教職員の職務については、業務分担表が示しており、各一有効に機能している。法人本部と当大学校の役割分担も実効性、効率を考え、必要に応じて見直しつつ運用している。	・「決定基準」の運用について経費処理を軸に内部監査を開始、その結果を受けて、運用を整備していく。 ・法人内のルールについても、細部、不足なものを明確化し、引き続き整備していく。	a.組織図(日産自動車大学校) b.組織図(日産京都自動車大学校) c.決定基準(日産自動車大学校) d.決定基準(日産学園) e.京都校規程 f.京都校内規
※1:日産・自動車大学校～日産の冠を持つ5つの学校(3つの法人)=(学)日産学園【栃木校、愛知校、京都校】(株)日産自動車【横浜校】(学)愛自学園【愛媛校】のアライアンス活動の総称。				
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか。	3	・人事・給与制度は整っており、各制度は必要に応じて適宜見直されている。	・賃金昇給の配分や手当てについて、組合との労使協議会にて毎年内容を協議し、運用に努めている。	a.就業規則

基準3 教育活動

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	3	・理念、教育方針に沿って教育課程の編成・実施方針を策定することを基本としている。2019年度より教育の質の向上を図るために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3ポリシーを整理し、それに適った方策を実施している。主に学生の自主性、主体性の育成に重点を置いている。 ・2017年度で整理した3つのポリシーの実現に向けて、2018年度から3年間、授業、生活指導を通して、学生の自主性、主体性を育成してきた。 ・2022年度より、学習の達成度を表を用いて測定するループリク評価方法を開始。学習を評価する方法としては、ペーパーテストが一般的である。ペーパーテストだけでは学習者のやる気を引き出せず、評価できる範囲も狭い。ループリク評価を行い、学生の「技能」「思考力」「判断力」といった実践での評価の他、「興味・関心」「意欲」「態度」といった課題への取り組み姿勢を評価に取り入れ、自主性、主体性の育成に注力している。 ・2023年度より、実習レポート評価をループリク表で評価(15点/100点)、実習行動評価(取り組み、片付け、コミュニケーション(15点/100点))を行い実習試験に反映している。 事前に学生展開を行い、自主性・主体性を促し教育を継続している。 ・2024年度から国際オートメカニク科の留学生に対しても、ループリク評価を行い自主性・主体性を育む取り組みを行った。 ・2025年度より一級自動車工学科。自動車整備・ボディリペア科においても、ループリク評価を開始した。	・学生の自主性、主体性の育成度合いを定量的に判断するためPROG(ジェネリクススキル測定試験)を2019年度より導入し結果分析を実施してきた。 ・2026年度は自動車整備・カスタマイズ科もループリク評価を導入する。これに伴って、PROGによる分析評価からループリク評価に移行し、全課程全学年で学生の育成度合いを定量的な判断に活かしていく。	- a.2021年度計画【教育部】 - b.2021年度PROG結果 - c.2023年度ループリク評価表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	4	・学科、実習共に、学生が修業年限で到達レベルに達する為に理解しやすいよう、教える内容、教える時間、内容のポイントを体系化した標準カリキュラム、学習シートを保有(実習は実習内容を体系化した実習スタンダードを保有) ・実際使用するカリキュラムは各校の教務、教科リーダーが各校の事情に合わせ一定の範囲内でカスタマイズしている。 ・教科書改訂や企業のニーズ等を定期的にチェックし、毎年、次年度に向けて、改定すべき点を確認し、毎年、日産5校でカリキュラム改善の検討を行い、幅広く見直しを行っている。 ・更に学校でこそ行える、より本質的であったり専門的な教育、更に学ぶ者がより達成感を得られるような教育内容(特に実習授業)を2017年度に検討した。19年度は検討内容をベースにして、自動車整備科にて実習授業は25人のグループ単位で実施することを多岐とした。それにより学生、教員とのコミュニケーションが活発に、学生に集中力も向上した。 ・整備科は4ローテーションの実習(32テーマ:1テーマ25時間)を3ローテーション(24テーマ:1テーマ33時間)に変更。時間を掛け原理原則から応用まで指導を行う。 ・国際オートメカニク科の1年生に対しても、整備科(日本人)と同等の実習カリキュラム、学科カリキュラムを実施。留学生単独クラスのためポイントを絞った内容を分かりやすく説明。 ・一級課程はより魅力的かつ人財育成に効果的な教育として、学生へ卒業研究の課題を与え、週1回の研究日を設定している。2019年度から学生フォーミュラー日本大会への参戦を果たし、更に卒業研究論文集も毎年作成している。2021年度以降は、更なる研究の充実を図るために、外部から講師を招き研究手法や課題解決手法を学び、2か月に1回程度報告会を実施することで進捗状況の確認や、抱えてる問題点を検討することで、発表時の内容も充実している。 また、学生フォーミュラ活動では、日産自動車株式会社から講師を派遣していただき、設計⇒製作⇒実験⇒確認⇒修正のようにモノづくりの考え方について学んでいる。 ・2022年度からChromebookを新入生に配付し授業等で活用している。一斉学習、個別学習、協働学習、レポート作成、宿題等家庭学習を取り組むことで学習効果を上げている。	・適切な水準にあると考えている。 ・2026年度より整備科1年生、国際オートメカニク科1年生において単位制の運営が始まる。単位制に伴う授業時間数見直しのほか、一般科目も設定し、カリキュラムの充実を図る。国際オートメカニク科は、1年生、2年生に「日本語講座」を新たに設置し、教員による整備士に必要な日本語教育を充実させる。 ・国際オートメカニク科においては、今年度初めて2年6か月のカリキュラムを終え、10月の国家試験を始めて受験する。早期から国家試験対策を実施し、10月の試験で全員合格を目指す。 ・2026年度から3月の国家試験が2週間前倒しとなる。そのため、整備科2年生、一級4年生の授業カリキュラムの見直しを諮り、国家試験の全員合格に向けて取り組んでいく。	- a.学びの樹 - b.実習STD(スタンダード) - c.授業計画書 - d.3つのポリシー - e.2022年度卒業論文集
車体	2	・自動車整備・ボディリペア科は、先進運転支援技術分野で、車体整備士に求められる知識・技術の必要な部分を選定し実習授業への落とし込みを検討中。 ・自動車整備・カスタマイズ科は、FRPによる加工、製品製作は新たな手法での作業も10年目となり、教える教員側のスキルも向上。 今年度よりカスタムカーの内装の質感の向上のため、植毛塗装機を導入する。 また、日産自動車から講師を招いて「クルマを開発する上で必要なターゲットカスタマーの設定等」の講習を受講し、ターゲットカスタマーを定義することにより製作する車両のコンセプトも明確になった。 ・製作車両のコンセプト(ターゲットカスタマーを設定することでより明確に)を実現することにより、車両製作の方向性が定まり仕上がりの良い車両が完成した。 ・東京オートサロンでは入賞できなかったが、大阪オートメッセでは出展車両のうち1台が毎年入賞している。	・自動車整備・ボディリペア科教員の先進運転支援技術についての知識・技術の習得を進めている。 ・基本技術も、現場のニーズの変化に併せ、フレーム修正を含む骨格板金等から、FRPを使用した部品製作やラッピング等の軽作業も実習に含める検討をしている ・3年前より実施している「ラッピング講座」は、産学連携授業となるように外部講師を招いて実施している。 一昨年度より「ガス溶接技能講習」「アーク溶接技能講習」「有機溶剤取扱主任者講習」を産学連携授業として実施している。 ・自動車整備・ボディリペア科教員にも電子制御装置整備の整備主任者資格講習の受講やNbc講座の受講を検討する。 今年度、自動車整備・ボディリペア科教員は電子制御装置整備の整備主任者資格講習の受講・諸問の受験を検討する。 ・2026年度3月の国家試験から日程が前倒しとなることに伴って、自動車整備・ボディリペア科の授業実施時期の見直しを図り、国家試験の全員合格を目指す。	d.車体教育課程編成委員会議事録(2025/2開催)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	・成績評価・認定、その先の進級、卒業の基準も明確になっている。3つのポリシーにて、各課程のディプロマポリシーを明確にしている。 ・教職員にポリシーの浸透に向けて、遅刻率1.5%に目標をおいて授業、指導を各教員の方策におとして実施した。 ・全体としては目標を満足したが一部の学年において、メンタル面で長期欠席も発生した。 ・2025年から国際オートメカニク科(留学生)においても、行動評価を行った。	・3つのポリシーにそった人材育成のツールとしてPROG(ジェネリックススキル測定試験を2019年度より導入している。導入当初は「入学時、卒業時の2回」であった。その間の取り組みと効果測定を実施するため、各学年の年度末に追加実施している。 2年課程3回：入学時、1年次2月、2年次2月、3年課程4回：入学時、1年次2月、2年次2月、3年次2月、4年課程5回：入学時、1年次2月、2年次2月、3年次2月、4年次2月。 ・進級時及び学年終了時にPROGの数値変化や改善ポイントのFbと面談を行うことで、人間性の成長具合を確認する。 ・2022年より、学習の達成度を表を用いて測定するリブリック評価方法を実施した。学生には事前に評価内容を掲示し、また、評価を公表し改善を促す取り組みを行い、自主性、主体性の育成に注力している。 ・2023年度より、実習レポート評価をルーブリック表で評価(15点/100点)、実習行動評価(取り組み、片付け、コミュニケーション(15点/100点)を行い実習試験に反映した。事前に学生展開を行い、自主性・主体性を促し教育を継続している。 ・2024年度からは学生個々の行動を評価する「アクションシート(行動評価シート)」を作成し、学生の自主性、主体性の育成に注力している。	a.学則 b.学ナビ c.2020年度教育部活動計画 e.ルーブリック評価表
	4	・3つのポリシーに沿った教育を継続実施。自動車整備・カスタマイズ科については、卒業要件に沿った教育を実施。	・卒業要件に謳っている人間性の達成度を明確にするために、レーダーチャートを導入した。 ・2019年度より導入しているPROG(ジェネリックススキル測定試験)の測定数値を過去に遡り、修業年度ごとに集計することで人間性の成長具合を数値化して確認する。 ・4年間のPROGデータの数値変化を振り返り、学生本人の成長具合(成長している部分、滞留している部分)をフィードバックすることにより、自分の長所と短所を理解させる。整備科が「アクションシートによる学生育成」にシフトしているため、自動車整備・カスタマイズ科用のアクションシートを作成・実施を検討している。	c.自動車整備・カスタマイズ科卒業要件

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	4	・すべての法定教科は目標とする資格(国家一級、国家二級、国家車体)に繋がるものであり、年間カリキュラムに織り込んで明確に定められている。直前の国家資格対策もカリキュラムに織り込んでいる。 ・2年間、3年間、4年間の中で、上記カリキュラムで履修した内容の理解度確認を定期的に統一試験として実施。併せて直前の国家試験対策でサポートしている。 ・前年度の結果を踏まえ、週1回留学生の日本語力の底上げ勉強会を行いフォローアップを行った。 ・2025年度の登録試験結果は、国家一級小型、国家二級ガソリン、国家二級ジーゼル、国家車体のすべてで合格率100%を達成した。	・留学生は日本語能力の低さが大きく影響する。入学時より継続的に日本語能力の向上を図る必要あり。 ・ハンデキャップを持つ学生への配慮について、学生本人、保護者と連携を密にとり、カウンセラーや地域支援センターのアドバイスもいただき検討していく。 ・必要に応じて、スクールカウンセラーとのカウンセリングを通じて、不安な状況を取り除いていきたい。	a.年間計画(カレンダー、凡例) b.統一試験 c.特訓計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	4	・必要な資格、一定の専門性を有した教員を常勤で確保。 ・専門性や教授力向上の為の、力量の把握や、教育にも力を入れている。 ・現在、国家一級資格保有者は、教員の6割。2023年度より資格取得サポートを強化し、保有者を増やす活動を開始した。 ・新技術や業界の新しい仕組み等を学ぶ研修は、日産自動車主催の各種研修に定期的に派遣している。 ・昨今、企業就職後に自発的な行動ができない、対人関係が作れない等の理由で早期に離職してしまう卒業生が増加。 ・メンタルが弱い、コミュニケーションが取れない、人間関係を作れない等の問題を抱えた学生も入学してくる。 ・学生の多様化においては、2020年度、2022年度に受講した「メンタルヘルスマネジメント研修」で学んだことがらを生かし、学内全体で連携して具体的な実務に落とし込まれ特性を持つ学生の育成の一助になっている。 ・2024年度は「メンタルヘルス研修アドバンス講座」として、基礎研修を受講した学級担任に計画し、受講した。	・教員の国家一級資格取得サポートは、2024年度以降も継続している。 2024/3:筆記試験(口述試験含む)2名合格 2025/3:同様に3名合格 2025/8:実技試験に5名合格。 2025/11:国家一級整備士5名誕生 ・ベテランの教員がマネジメント職に昇格している為、新任教員を補充している。その為、教師力、授業力が低いことに課題があり、研修等で向上させることが急務になっている。	a.教員資格一覧 b.教員研修計画 c.教員研修報告
	4	・車体課教員においても十分な企業での車体整備経験を有しており、資格も車体整備士資格を取得済みである。 ・車体課教員についても「メンタルヘルスマネジメント研修」「メンタルヘルス研修アドバンス講座」を受講し、学生の育成に活かしている。		

基準4 学修成果

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
4-1 就職率の向上が図られているか	4	・就職(求職)対象者全員に対して、就職を斡旋し、毎年、日産販売会社を中心に100%の実績を上げている。 ・就職対象者全員の、受験状況ならびに内定までの状況をリアルタイムに把握しつつ100%を目指す体制を敷いている。 ・入学当初から整備業界の説明、日産販売会社の仕事内容等、就職を意識させる授業を行っている。 ・2025年度よりオープンスクールを開始。日産販売会社の採用担当者などにお越しいただいて、日常の学校授業を見学していただいている。休憩時間等を利用して就職相談を開催し、企業と学生双方の理解促進の場としている。	・就職に向けての意識付けと就職が決まった後の取り組みについて、従来から存在していた、就職へ向けてのステップを見直し、就職への意識付けから受験・内定後の取り組みまでの現在の授業にさらに磨きをかける。 ・学生にとっては企業を知る機会を増加させ、日産販売会社にとっては企業を知る機会を増加させ、それぞれがwin-winの関係となるように参加企業の増加に努める。 ・2026年度は就職ガイダンスを「就職フェア」として大規模に開催し、学校および日産販売会社が一丸となって学生の就職を強力に後押しする計画を進めている。	a.就職概況 b.就職進捗表
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	・資格取得において、日産5校で指導計画を共有し統一試験実施等、連携した取り組みをしている。【一級、二級、車体ともに】 ・前年度の結果を踏まえ、週1回留学生の日本語力の底上げ勉強会によりフォローアップを図った。 ・2025年度の登録試験結果は、国家一級小型、国家二級ガソリン、国家二級ジーゼル、国家車体のすべてで合格率100%を達成した。 ・国家一級整備士資格は、前年度同様、4年生にてほぼ毎日1時限目を国家試験対策の学科授業として、早期より対策を打った。更に模擬試験内容も見直して、過去問題の完全理解と難易度の高い(理解していないと解けない)問題等での学習や早期の放課後補習に取り組んだ。 ・国家二級整備士資格は、オンデマンド教材を併用しながら、効果的に学習を行った。 ・留学生に対して、4月からの国家二級の補習を行なった。	・国家二級整備士試験の結果は、ガソリン、ジーゼルともに全員が合格したが、暗記に頼らずに問題を解けるよう、引き続き日本人及び留学生補習の内容を改善する。 ・2024年度に立ち上げた国際オートメカニク科(単独の3年課程)は、最終学年となった。早期から国家試験合格に向けて日本語と国家試験の両面から学習を深めている。10月の国家試験で全員合格を目指しているが、万一不合格の場合であっても3月の国家試験でフォローを行い、国家二級資格を全員取得させる。 ・国家一級については、昨年同様過去問題の完全理解させるために模擬試験の見直しを徹底した。また、クラスの高い正答率の問題を低位学生が間違っていないか確認し、間違っている場合は理解できるまで取り組みさせた。今年度は昨年度よりも特別養成講座(国家試験対策)を一か月前倒して実施し、受験者全員が合格した。 ・二級補習運営において早期補習を行い、余裕をもって試験に挑み全員進級、全員合格ができた。	資格別、年度別合格率一覧
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	・企業アンケート(卒業生の評価)や、企業訪問時(教育担当者との意見交換等)、就職先での技術大会への選抜状況等を通じて把握している。 ・就職先企業の社内技術大会において、高い評価を得ている(特定メーカー社内大会で全国優勝等) ・卒業生に対するアンケートで、卒業生全体の状況を、企業訪問時(インターンシップ訪問等)、就職先での資格取得状況等で、個一人の状況・評価を把握している。	・昨年に引き続き、企業の教育担当者に卒業生の評価を何うとともに、弊校教育の方向性について意見交換を行ない、学校が育成する学生像・育成している内容等を共有した上で企業での学生の社会的評価の確認に繋げていく。	a.企業アンケート b.卒業生アンケート c.販売会社懇談会議事録

基準5 学生支援

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	3	・学務部職員と教員とが連携し、学生の支援は円滑に行われている。(求人情報の取得から、教員・学生への展開はスムーズであり、企業別・個人別の進捗状況は、リアルタイムで確認され、学生と連携している。) ・学務部にて、校内のメジャーな就職先の企業ガイダンスの実施。企業情報の提供、企業訪問、会社説明会の展開も行っている。(企業情報を一同に比較できるよう公開し、情報提供も充実している) ・クラス担任との学生個別面談(就職先企業選択等)・学務部職員との個別面談(就職先企業の情報確認等)によるアドバイスを適宜行っている。 ・クラス担任・学務部職員・外部講師により身だしなみ指導、履歴書の書き方から面接試験等のトレーニングまで実施し、体系的に就職教育、指導を行っている。	・学生の就職意欲に差があるため、従来通り就職先選択の重要性等継続指導していく。また、企業連携として企業から講師を招き、やりがい・目標等職業の魅力や新技術の体験等を伝えて職業観を持たせる。個一の企業情報は、個社から情報をいただき、活用しているが、引き続き拡大検討が必要。 ・夏休みの企業訪問は今後も行い、早期から企業側との接点を持たせる。また、学生アルバイト等更なる企業との接点開拓を検討。	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-2 退学率の低減が図られているか	3	・担任、副担任による四半期ごとの学生面談にて、学生の悩み、不安を把握して、アドバイス。 ・自動車整備科では25人グループでの実習により学生と教員のコミュニケーション活性化、更に学生の授業取り組み状況の確認と学年での共有。 ・学校カウンセラーの活用により、学生にメンタル的な悩み、不安の相談機会を増やす。(2018年度より2019年度は1.5倍、2020年度はさらに1.5倍ほど増加)カウンセラーから教員へ学生とのかかわり方のアドバイスも実施したことで教員の知識と対応力が向上した。	・昨今、入学前より精神面での課題を持った学生も入学してくることが多くなっている。入学前に高校での聴き取り、保護者からの聞き取り等をして、事前情報の入手して適切に対応できるようしている。 ・担任、副担任は四半期ごとに課題のある自クラスの学生全員との面談を行い、学生状況の把握と成績、生活面での相談を聴くことを継続している。 ・最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、2017年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制を整備しスタートした。更に教職員へは、月1回のセルフチェックを実施し注意喚起している。 ・また、年1回のハラスメントアンケートを全学生対象に実施している。 ・最近では特性のある学生の入学が増加傾向にある。現在までの面談中心の学生指導では、カバーできなくなっている現状である。 ・特性がありそうな学生をスクールカウンセラーにつなぐことにより、学生が抱えている特性を少しでも理解し、ある一定範囲の配慮を実施している。 ・2025年度 休退学者 総数20名 在籍率 96.5% 対応可能な休退学者 0名 休退学率 0% 対応不可能な休退学者 20名 休退学率 3.4% ・今後も上記の取り組みを継続して意識を高めていく。	a.退学状況

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか	4	・各正副担任が、学校側からの定期・不定期の学生面談を行っている。また、学生の相談にも応じている。(教員に対しては研修を実施し、スキルアップの機会を設けている。) ・最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、2017年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制としている。 ・学校のカウンセラーは定期(1回～2回/月)の体制で実施している。 ・2020年度には、「メンタルヘルスマネジメント研修」を開始。全教員が受講することにより、教員自身の対応力にとどまらず、学校として対応できるよう取り組んでいる。 ・2023年度には「アンガーマネジメント研修」を実施し、教員の対応力向上を図った。	・メンタル等の問題を抱える学生は、増加傾向にある。学生カウンセリングの増加対応については相談日を3日間に増やす等、柔軟に対応している。今後も継続的な対応とする。 ・「メンタルヘルスマネジメント研修」「メンタルヘルスアドバンス講座」で得た知識を、学内全体で連携して継続的にアップデートを図ることが必要。	特になし

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	3	・国の高等教育修学支援制度、日本学生支援機構の奨学金制度、弊社独自の特待生による学費減免制度、遠隔地学生の寮費の減免制度、その他資金融資制度を設けている。 ・また、留学生への学内・学外の奨学金制度を設けている。企業からの奨学金制度の紹介を実施している。 ・分納制度は2016年度より実施。 ・2017年度より高等教育修学支援制度〈給付・減免〉を実施(自動車整備・ボディリペア科、自動車整備・カスタマイズ科は2019年より) ・2025年度より多子世帯に向けた案内・手続きを実施	・分納制度、高等教育修学支援制度のニーズも高く継続して対応していきたい。 ・販売会社奨学金のスキームも徐々-に拡大されて来ている為、学生(高校生)に対して訴求し、サポートしていきたい。 ・留学生の学費納付については、母国からの仕送り状況やアルバイト状況により柔軟に対応していきたい。 ・内定先からの奨学金制度も活用していきたい。	a.募集要項(奨学金/分納制度) b.就学支援奨学金の案内 c.企業奨学金制度の案内
車体	4	・地域が行っている独自奨学金の紹介を実施 ・企業等が行っている留学生への奨学金の紹介を実施		

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-5 保護者との連携体制を構築しているか。	4	・学生の動向、学業、生活態度、トラブル等、懸念されることは、主に電話にて保護者と綿密なコミュニケーションを図っている。今までレターで保護者連絡していたが、学校ホームページを刷新し、保護者向けページを開設。保護者への遅滞ない情報提供を進めている。 ・ケースによっては、保護者面談、家庭訪問等を行い、学生情報の共有、指導方法、進路相談等について連携をとっている。	・保護者、学生への緊急連絡の手段として各教員へIPフォン(050)の導入を2018年度より開始。 ・今後、費用、時間の削減のために学校ホームページからの情報提供をより進めたい。	a.学生動向報告 b.保護者レター c.学校ホームページの保護者向けページ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-6 卒業生への支援体制を構築しているか。	3	・企業の採用担当者から、随時、直近の卒業生の現況確認を行い、問題があれば、個別にサポートをしている。 ・制度は存在しないが、卒業生から相談があれば、随時対応している。(就職先の相談等) ・校友会(同窓会)と連携し、校友会の学校ホームページからの卒業生の再就職支援の案内を開始した。	・今後も、校友会と連携して、卒業生の動向等を把握する中で、支援体制を検討していく。	a.校友会体制表

基準6 教育環境

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	4	・カリキュラム対応/新車・新技術対応ができるよう一年の整備・更新している。むこう3年間の中期での設備投資を計画している。 ・実習後の車両整備、定期の機器の点検整備を実施している。施設、設備の更新については、教育上の必要性に鑑み、中期計画、年度計画を通じて、計画的な更新を行っている。機器の整備については、専門業者による定期のメンテナンス、教員による実習後の復元の体制で維持している。 ・2019年度から実習場の整理整頓と工具室での工具、テストの管理を開始。工具の紛失を無くし、学生への整理整頓の意識付けを行っている。	・投資効率の高い(投資額は少なく、教育効果が高い)計画とするため、教科担当教員と相談の上、優先順位を付けて見直しをしていく。旧型の教材(現行車に対応していない)や傷みの激しい教材の更新を優先的に実施中。 ・その他の教材のメンテナンスについては、定期的にフォローしていく。 ・工具室での工具、テストの管理は、管理者は学年で決めて、徹底していく。	a.設備投資計画表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	・学外実習(新入生研修/国内研修等)・インターンシップ(各課程最終年次)を実施している。各一実績を把握し、教育効果を確認している。(一級のインターンシップは評価システムがある。その他インターンシップ/学外実習も実施後のレポートで確認を行っている。) ・海外研修については、保護者の経済的負担を考慮して2年次の全員参加での開催は2019年度から行っていない。	・一級自動車工学科のインターンシップは、養成施設において指定基準があり、それに沿って実施内容が決まっている。一級以外のインターンシップ(内定者研修)では、引き続き企業と連携を取り教育上必要な内容について実施していく。 ・2019年度に海外へ希望学生に学校から旅行社を紹介する形に海外研修のやり方を変えたが、希望者が少なくツアー催行とならなかった。経済的な課題もあり、学生のニーズも少なくなっていることから廃止している。	a.インターンシップ計画表(一級自動車工学科、自動車整備科) b.年間計画(カレンダー、凡例)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-3 防災に対する組織体制を整備し適切に運用しているか。	3	・火災に対する体制は整備されている。 ・自衛消防隊を組織し、火災または地震に対して対応出来るようにしている。万一のために防災倉庫も保有している。 ・通学途中、その他でバイク・自転車による事故が年間数件発生しているため、長期休暇前には啓蒙活動を実施している。近隣警察署から交通事故防止の講習会を実施して事故の"怖さ・悲惨さ"などを伝えている。	・大規模災害(大地震)に対する対応マニュアルを完成。その他の災害に対するマニュアルを今後整備していきたい。 ・校内での実習車を含める車両には、誘導員の徹底など事故防止に努める注意喚起を引き続き進める。 ・地震対策として、ロッカー、棚、落下物の固定、危険物の管理などを行っているが、まだ不十分であり、引き続き対策を行う。	a.防火訓練計画・要領 b.防災組織表 c.防災マニュアル。

基準7 学生の募集と受入れ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか。	4	・例年通り適正(年度計画を作成し、目標に対する諸活動を明確にしている)に行い、目標:220名に対し228名の入学者を確保する事ができた。 - 特に2025年度の活動では、日本人入学生と外国人留学生の割合が留学生が上回る結果となり、留学生の整備士希望者の強いニーズを感じている。 - 日本人学生も25/4入学:122名⇒26/4入学:86名と大幅に減少。反面、留学生は25/4入学:126名⇒26/4入学:142名と増加した。 【2025年度の方策の実施状況】 1)エリア担当者を増員し高校訪問活動を強化し、足元の近畿エリアを中心に強化を図った。 2)昨年に引き続き販売会社との連携による応募希望者の更なる誘引活動を行った。 3)留学生確保対応 高校の訪問と同様、日本語学校の定期訪問の強化と新規校の開拓を実施。出張説明会などを実施し、多くの留学生をOCに誘引した。(参加数:732名)	・18歳人口全体の人数が減少している中で、専門学校特に自動車整備士を目指す学生は日本人減少は当面加速すると思われる。 ・2026年度も同様、日本人確保については、大きく改善を見込める要素がないが、留学生については自動車整備人気はさらに加速する事が予測される。 【2026年度方策】 1)日本人学生の獲得強化 ・エリア長の追加と担当エリア見直し(近畿エリアで1名の追加) ・訪問活動の強化(指定校推薦書など訪問により案内と定期的なコミュニケーション) ・日本人紹介制度の実施(在校生の友人の紹介活動) ＜近畿エリア＞ ・近畿圏を中心とする近隣エリアの高校との連携を強化。 ・販売会社との連携活動を強化。(同行訪問・出張授業など) ・近畿圏で最も18歳人口の多い大阪エリアからの入学者増加策の実施。(エリア担当者の増強など) ・年度対象者だけではなく、高校1年生や2年生。中学生や小学生など低年齢層へのアプローチを強化し、「クルマ好き」を増やす取り組みが必要。 ＜遠隔エリア＞ ・販売会社との連携活動。(現地説明会の実施など) 2)留学生確保の取組み ・日本語学校での独自出張説明会の強化。(説明会⇒OCへ誘引) ・日本語学校とコミュニケーションを取り、入学者や卒業見込み者の把握。進路決定のサポートを実施し、業界の理解を深めてもらえる提案を実施。(状況把握⇒連携強化) ・留学生の紹介制度実施 - 留学生のネットワークは広く、友人の紹介の声は多い。留学生の自動車の憧れは強く、自動車の学びや将来日本で働くことを希望する学生に学校を知ってもらう機会を増やす。	a.募集方針書
車体	3	・2025年度、自動車整備・カスタマイズ科では2台のカスタムカー制作を行い、大阪オートメッセ、東京オートサロンその成果を披露した。 ・制作車両において、関係者からの評価は非常に高く、大阪オートメッセでは人気投票10位を獲得した。それらを活用しYouTubeへの動画告知・学校ホームページ・チラシ送付等で告知活動を実施し、課程の魅力PR。 ・自動車整備・カスタマイズ科はOC参加者や学校生説明会のアンケートなどでも人気の課程となっている。	・自動車整備・カスタマイズ科は一定数を確保できているが、自動車整備・ボディペーパー科希望学生は、2025年入学者で18人(2024年:17人、2023年:5人、2022年:8人)と安定しない。 - 引き続き、オープンキャンパスなどPRのタイミングで自動車整備・ボディペーパー科・自動車整備・カスタマイズ科の告知強化を図る。在校生についても、自動車整備科から進学希望者を誘引、車体系課程からの離脱を防ぐために活動PRを強化する。 ・上級課程進学では、一級課程入学者の減少が課題となっていたが、今後の新技術などの対応が必要となるためPRを強化、2025年の入学者は増加した。今後も引き続き、教育部と連携し訴求を図る。	a.募集方針書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	・AO入試、一般選考、推薦選考すべて、基準に基づき公平に合否判定を行っている。 ・アドミッションポリシーを整理すると共に、その実現に向けた方策の検討を行った。 ・留学生の受験者が増加する中、入学課程に合わせた日本語能力試験問題(N2レベル/N3レベル)を作成し、レベル判定の基準が整ってきた事で早い段階での受験者と後半の受験者でも合否の判断がスムーズになり、安定的な運用ができるようになった。	・判定レベルの基準が整ってきたが、留学生の受験者が増加した事でより高いレベルの学生を選抜する事が出来る環境になってきた。そのため受験期による判断が難しい状況となっている。	a.入試面接表合否判定資料 b.日本語学校指定校案内文書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか。	4	・妥当と認識している。(教育内容、世間相場を考慮して改正をおこなっている) ・高等教育就学支援制度の減免金額を参考に授業料とその他学費の見直しをした。(合計の学納金額は変わらない) ・留学生クラスを「国際オートメカニク科」とし、学費含め運用方法を変更。年間授業料も3年間均一で82万円/年としたことで支払いの遅れなども減少した。 ・就職内定先より内定者向けの奨学金制度を設定する企業が出てきたことで、就職先の選択資し、上手く活用する学生が増加した。	・留学生クラスの変更を行ったが、経済状況の厳しい留学生はまだ多い。日本人のような学費支援制度が少ないため、日本語能力試験N2合格による奨学金や留学生対象のオリエンタルパイオ奨学金(25万円)の希望者は多い。 ・内定者向けの奨学金制度を設定していただく企業が増加するよう働きかけを行っていく。	a.募集要項b.留学生寮費サポート

基準8 財務

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	・留学生の学生数の増加に対して事業計画の見直しを毎年図っている。	・学生募集は留学生の受け入れが増加している。意欲と経済的に安定している留学生の入学を増やしたい。更に「学校の将来構想」「教育の質の向上」「学生募集活動」等の成果から、選ばれる学校になれるようにPRする。	a.資金収支計算書 b.事業活動収支計算書 c.貸借対照表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	3	・教育を円滑に進めていくために必要な資源を確保し予算を策定しており、有効、かつ妥当なものになっている。	・中期計画ではコストを抑えた運用と総学生数の維持が必要。更に募集を伸ばす方策検討が必要であり、事業計画にあった学生数の確保が課題。	※以下は、1-3の資料と同じ a.事業計画(2021年) b.2021年度活動計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか。	4	・適正に行われている。(公認会計士/監事が監査。6月の理事会評議員会で報告。) ・2017年度より経理内部監査を実施。運用の適正性に貢献している。 ・2025年度から会計監査人による監査体制となる。	・新会計基準に合致した運用へと確実に切り替えていく。	a.監査報告書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	4	・学校ホームページに公開(毎年7月に更新) ・公開内容:資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表	・特になし	a.財務状況(学校ホームページ)

基準9 法令等の遵守

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか。	4	・本校は、学校教育法、専修学校設置基準、一種養成施設認定規則、などの該当する法令には準拠しており、適正な運営を図っている。 ・学生の法令順守という意味では、近年社会問題にもなっている車両の違法改造、道交法の順守について、啓蒙活動は強化しているが、交通事故のように目立った減少を見ないものもあるため活動を継続する。また、未成年の飲酒、喫煙についても注意喚起を行っている。 ・情報のセキュリティや、個人情報保護については、システム的な保護、教職員への周知の両面で徹底してきており、トラブルは発生していない。一方、学生に関しても、啓蒙活動を継続しており、ツイッターなどSNSでの学生のトラブルは落ち着いている。 ・薬物乱用においても、京都府薬物乱用防止指導員を3人選出。薬物乱用に関わるセミナーに参加して、学生へ注意喚起を行っている。	・学生は毎年入れ替わる為、学生の法令順守に対する啓蒙活動は今後も継続していく必要がある。 ・違法改造、道路交通法に関するもの、未成年の飲酒、喫煙。更に昨今問題となっている違法薬物防止についても周知徹底の為の活動を継続していく。 ・トクリュー(匿名・流動型犯罪グループ)による特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺、強盗などを敢行する犯罪組織に加担しないように注意喚起を行っていく。	a.国土交通省監査関係書類

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	3	・自動車整備科、一級自動車工学科は職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っている。 ・自動車整備・ボディリアア科、自動車整備・カスタマイズ科については2021年度に承認され、適正な教育運営を行っている。	・(産学連携)企業数社と連携しての授業実施。また、自動車整備・カスタマイズ科車両製作の支援など、連携は広く、深くなってきている。今後も更に有益な連携ができる企業を模索していく。 ・国際オートメカニク科は2026年度に第1期が卒業するため、2027年度申請予定。 ・2026年度に新しい協賛企業としてジャココが、連携を提案頂き、活動を開始。	a.職業実践専門課程申請関係書類

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか。	4	・統一の教務・学務のシステムでは、適切なアクセス権が設定され、不必要なデータへのアクセスができないようになっている。 ・教職員には、情報セキュリティや、個人情報保護に関する教育を通じ、情報の重要性、扱いの注意を徹底している。 ・外部に対しても、学生・保護者を含め、情報管理方針を明示し、対応を明確にしている。 ・学生に対するSNSによる不適切動画の危険性などの啓発活動により、大きなトラブルは無い。	・引き続き、教職員向けの情報セキュリティ勉強会など教職員に対する啓蒙活動を行っている。 ・学生のSNS関連のトラブルのリスクの存在は変わっていないが、啓蒙教育及び注意喚起を継続していくことで、問題の発生を防ぎたい。	a.個人情報管理方針(学校ホームページ) b.人事規定(機密保持) c.情報セキュリティスタンダード d.学生個人情報の取扱に関する同意書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	4	・学校の自己点検評価は2013年度から、学校関係者評価は2014年から実施している。第三者評価についても2016年度に全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA)の実証実験事業において実施。	・2025年度も6月に学校関係者評価を実施。いただいたご意見を学校教育に織込むと共に、報告書を学校ホームページに掲載している。 ・2022年度までは自動車課と車体課を別日程で実施していたが、相互意見交換の必要性を鑑みて、2023年度より合同で開催している。	a.自己点検結果(学校ホームページ) b.学校関係者評価結果(学校ホームページ)
車体	4	・2021年6月に、車体系企業・団体の代表の方を学校関係者評価委員に加え、車体学校関係者評価委員会を実施。	・2025年6月の学校関係者評価委員会において、自動車整備・カスタマイズ科でのカスタムカーの車両製作を通しての人財育成などについて貴重なご意見をいただき、年一人材育成力の向上、制度の高い車両の政策に取り組むことができるようになった。 ・2022年度までは自動車課と車体課を別日程で実施していたが、相互意見交換の必要性を鑑みて、2023年度より合同で開催している。	a.学校関係者評価委員会名簿 b.自己点検結果(学校ホームページ) c.学校関係者評価結果(学校ホームページ)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	4	・教育情報についても学則・カリキュラム・シラバス・資格取得実績・就職率等、2014年度から学校ホームページにて公開している。 ・2023年度に学校ホームページを刷新し、より情報公開ページにアクセスしやすいページ構成としている。	・2018年度より学校教育の理解促進のために、より詳細な情報として合格率・就職率・学生数等、の詳細情報を開示している。(年度別・個別詳細等)	a.学校ホームページ(学則・カリキュラム・シラバス等)

基準10 社会貢献・地域貢献

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・地元企業、関係団体の要望に対して、積極的に保有施設・設備の貸し出しや、当大学校で可能な講座の提供を行っている。 ・高校・中学からの講演要請等にも、自動車関連企業と連携して、その要請に応えており、その活動範囲は広がっている。 ・近年は近隣の方への学校イベントの告知や誘引を学生が主体的に行っており、地域とのコミュニケーション醸成が図られている。 ・【高校・中学】職業教育への支援(出前講演会、出前体験授業、学校見学受入れ、学内体験授業) ・【企業】地元企業の新入社員に初級整備技術教育の実施 ・【企業】地元企業の整備技術大会への人的・物的支援、学生見学の実施 ・【企業】販売店へ保有教材車両を持ち込んで販売店イベントに協力 ・【団体】整備振興会開催のオートフェスタ等イベントへの人的・物的支援及び学生の参加 ・【団体】板金塗装関係団体の技術大会への人的・物的支援 ・【団体】国家試験会場として学校施設・設備を提供 ・【地元地域】学生が主体的に地元幼稚園に働きかけを行い、学園祭にて園児ミニ四駆体験などのイベントを開催し盛況となった。	・学園祭等を利用して高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく。 ・地元、中学校との繋がりを深めて、中学校での授業の一部を当大学校学生が協力できるようになった。中学からの依頼、高校の職業体験等の依頼が増えてきており、可能な限り対応を進めていきたい。	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-2-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	3	・学校では、定期的に教職員とともに地域への清掃活動を継続している。 ・寮では、近隣のボランティア活動(公園清掃等)への参加を寮生に呼びかけて実施している。 ・鈴鹿サーキットで開催されるレースにおいて、オフィシャル活動を継続している。	・学生が自発的にボランティアに参加できるような機会の提供を引き続き検討したい。 「23Day」と称し、毎月23日のホームルーム前に、学生、教職員の自発的参加者により地域清掃を実施している。	

基準11 国際交流【必要に応じて】

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
国際交流活動を行っているか。	3	・海外研修は2019年度より全員参加での実施は行っていない。主な国際交流はアジア系留学生との交流となっている。 ・留学生も日本人と同じクラスで学校生活を送るため、自然と日本人との交流が発生するが、昨今、留学生の増加により母国が同じ留学生同士が集まる傾向があり、日本人との交流が進まないことが課題。 ・イベントを活用した学内の交流活動を実施している - 新入生ウェルカムパーティー - GT活動 - 学園祭 - 地域のお祭り - ボランティア活動 等	・留学生の増加に伴い、留学生と日本人学生との交流をより図り、多様性を受け入れるマインドを育成したい。 ・留学生には、学習を通して日本人と交流する機会を作りたい。(日本人学生が留学生に日本語を教える、海外の料理を食堂で提供していただく、等) ・2024年度に開設した国際オートメカニク科については、3年次後期のカリキュラムに国際交流活動を設けている。具体的には、外部の日本人へのアンケート調査を実施する。そのため、日本の文化や礼儀作法の学習を深め、調査のための日本語習熟、また、実地調査でのコミュニケーションなどを通じて、学外の日本人とも交流できる仕組みとしている。 ・イベントを活用した学内の交流活動は今後も継続したい。加えて、新たな交流の場となるような取り組みも引き続き模索していく。	a.海外研修アンケート結果